



史跡
こうもり塚古墳

吉備最後の
大型前方後円墳と
その時代

2023

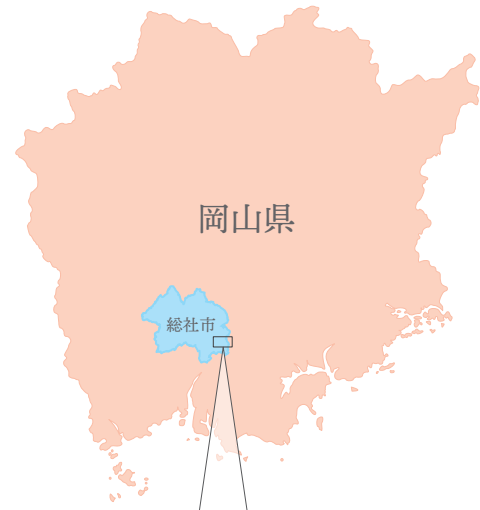
岡山県古代吉備文化財センター

総社市南東部から岡山市西部にかけての一帯は、全国第4位の大きさを誇る造山古墳をはじめ、こうもり塚古墳、作山古墳、備中国分寺跡など、全国的に著名な史跡が集中し、「吉備路風土記の丘」として親しまれています。

このうち、こうもり塚古墳は、古墳時代後期の大型前方後円墳で、巨大な横穴式石室をもち、貴重な品々が出土したことから、吉備の有力豪族の墓と考えられています。

岡山県古代吉備文化財センターでは、令和2年度から「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業の一環として、こうもり塚古墳の測量調査や墳丘の発掘調査を実施したほか、過去に行われた横穴式石室の発掘調査で出土した遺物の整理を行いました。その結果、こうもり塚古墳の築造年代やその性格について、重要な知見を得ることができました。

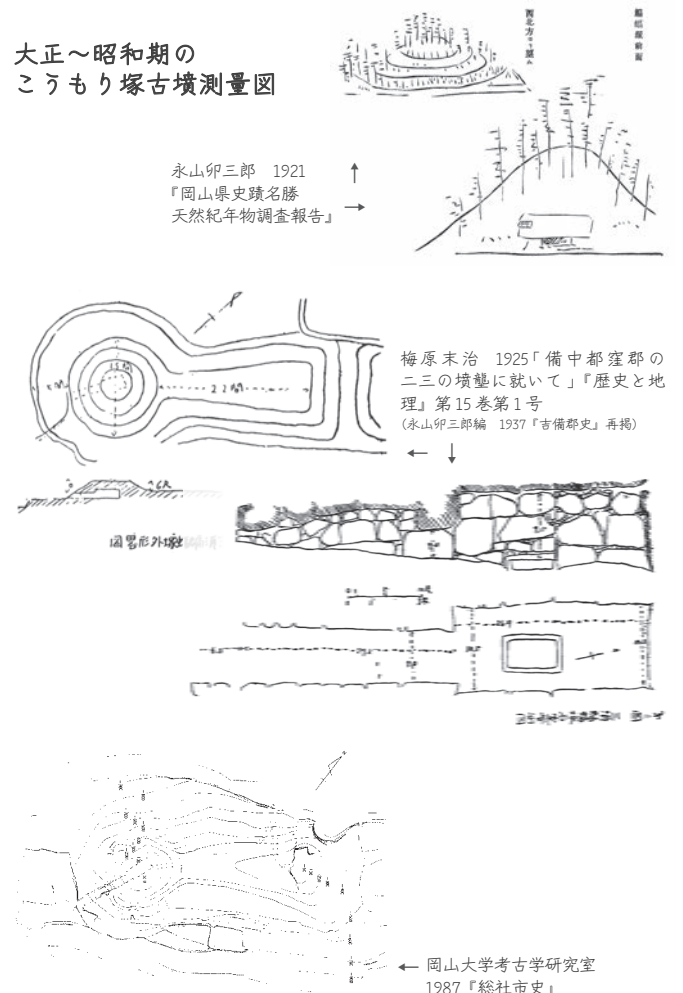
このガイドブックでは、これまでの調査成果を紹介するとともに、そこから見えてきたこうもり塚古墳とその被葬者を取り巻く時代背景について考えてみます。



史跡こうもり塚古墳の沿革

年月	内容
文政初年 (1818)	玉・刀・鏡が出土したと『総社記』に記載
大正14年 (1925)	前方後円墳と判明 (梅原末治「備中都窪郡の二三の墳壘に就いて」)
昭和26年 (1951)	こうもり塚古墳墳丘測量調査 (岡山大学による調査)
昭和42年 (1967)	こうもり塚古墳発掘調査 (岡山大学・岡山理科大学による玄室・羨道の調査)
昭和43年2月 (1968)	こうもり塚古墳、備中国分寺跡が国史跡に指定される
昭和45年 (1970)	吉備路風土記の丘建設決定
昭和53年12月 (1978)	こうもり塚古墳発掘調査 (岡山県教育委員会による羨道・墓道の調査)
平成30年 (2018)	日本遺産『『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま』の構成遺産に認定
令和3年3月 (2021)	保存活用計画策定
令和3・4年 (2021・2022)	こうもり塚古墳発掘調査 (岡山県教育委員会による墳丘の調査)

大正～昭和期の こうもり塚古墳測量図



こうもり塚古墳が造られた時代

古墳時代は3世紀後半から7世紀まで続いた時代で、各地の豪族が古墳を築くことで権力を誇示していました。古墳の形には種類がありますが、特に前方後円墳は格式の高い墳形と考えられ、畿内の大王墓や地域の有力首長墓に採用されました。

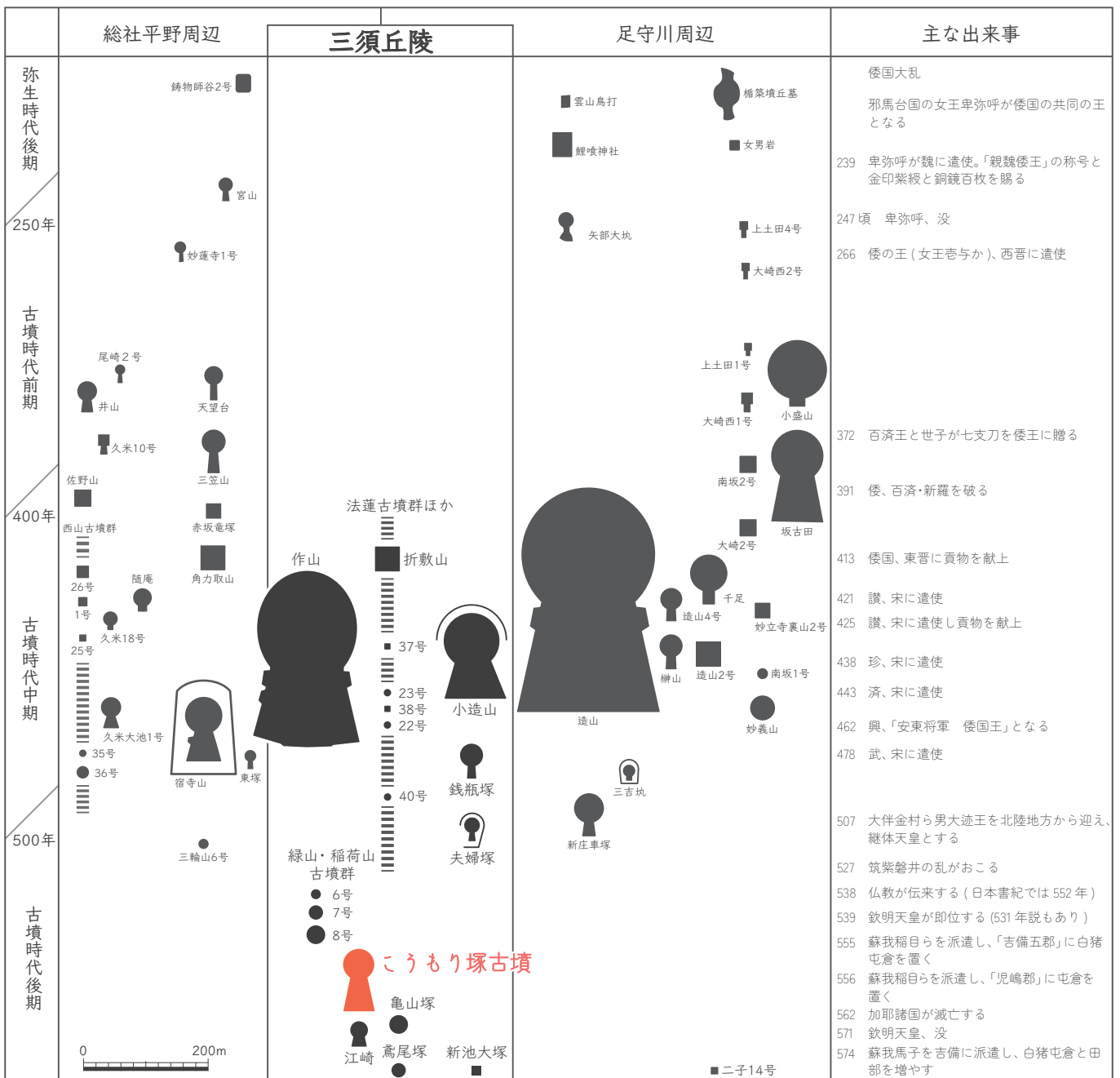
古墳時代には、吉備路周辺においても数多くの古墳が営まれ、特に、古墳時代中期には造山古墳や作山古墳など、全国的にも上位に入る巨大な古墳が造られました。この時期の古墳には、たてあなしせきしつ 縦穴式石室が設けられ、亡くなった首長は豪華な副葬品とともに葬られ、古墳は埴輪や葺石で飾られました。

古墳時代後期になると、横穴式石室が採用されます。その中で、古墳全体に占める前方後円墳の数は減少し、規模も縮小していきます。

こうもり塚古墳の周辺では、古墳時代後期に入り、しばらく大きな前方後円墳は造られていませんでしたが、およそ半世紀の時を経て、長さ約100mに近い前方後円墳であるこうもり塚古墳が出現します。

しかし、次第に前方後円墳を築造する意義は廃れ、こうもり塚古墳以後、この地には大型の前方後円墳は造られなくなります。

こうもり塚古墳周辺の古墳の変遷と年表



図は近年の調査成果を取り入れて作成しているが、中には墳形や帰属年代について不明なものが含まれている。

こうもり塚古墳の墳丘

墳丘の発掘調査

こうもり塚古墳は、三須丘陵の南西方向に延びる低い尾根を切断して造られており、尾根の先端部分に後円部が位置します。

こうもり塚古墳では、これまで墳丘の発掘調査は実施されておらず、墳丘の規模や構造の詳細は不明でした。そこで、令和3・4年度に墳丘の発掘調査を行いました。

その結果、古墳は上段・下段の二段築成で、後円部では下から順に土を積み上げるのではなく、まず後円部内周に溝(註1)を設け、その内側を先に盛り上げ(第一次墳丘)、次に溝を埋め戻して下段(第二次墳丘)を造るといった工法が採用されていたことが分かりました。また、第一次墳丘は、異なる土を交互に積み上げ、叩き締めて堅固に造られていました(註2)。一方、前方部は、下段は地山を削って整形し、上段はまず土手(註3)を前面に造って上段前端を決め、次にその内側を互層状に土を盛って造られていました。また、墳丘の周りには緩傾斜に整形された周縁部が設けられていたと推定できました。このように入念に造られた古墳でしたが、北西斜面では段築を設けないなど整形の簡略化もみられました。

ここでは、こうもり塚古墳の墳丘構造と造り方をみていきましょう。

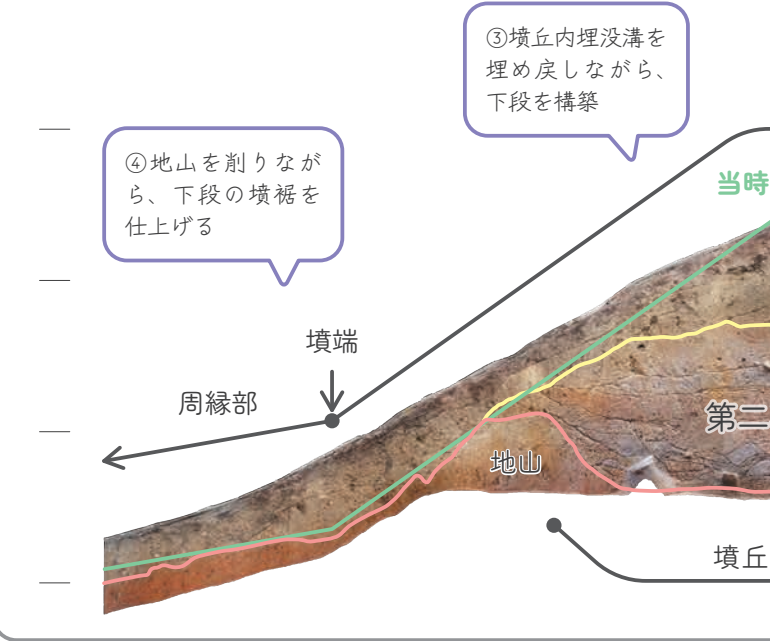
(註1)最終的に埋め戻されるので、「墳丘内埋没溝」という。

(註2)ここでは、「互層状盛土」という。

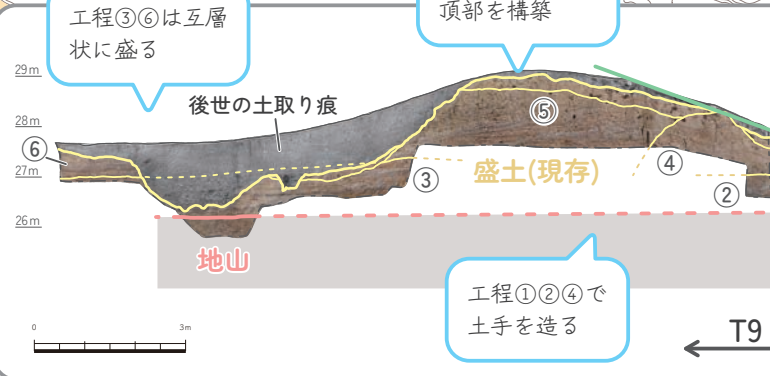
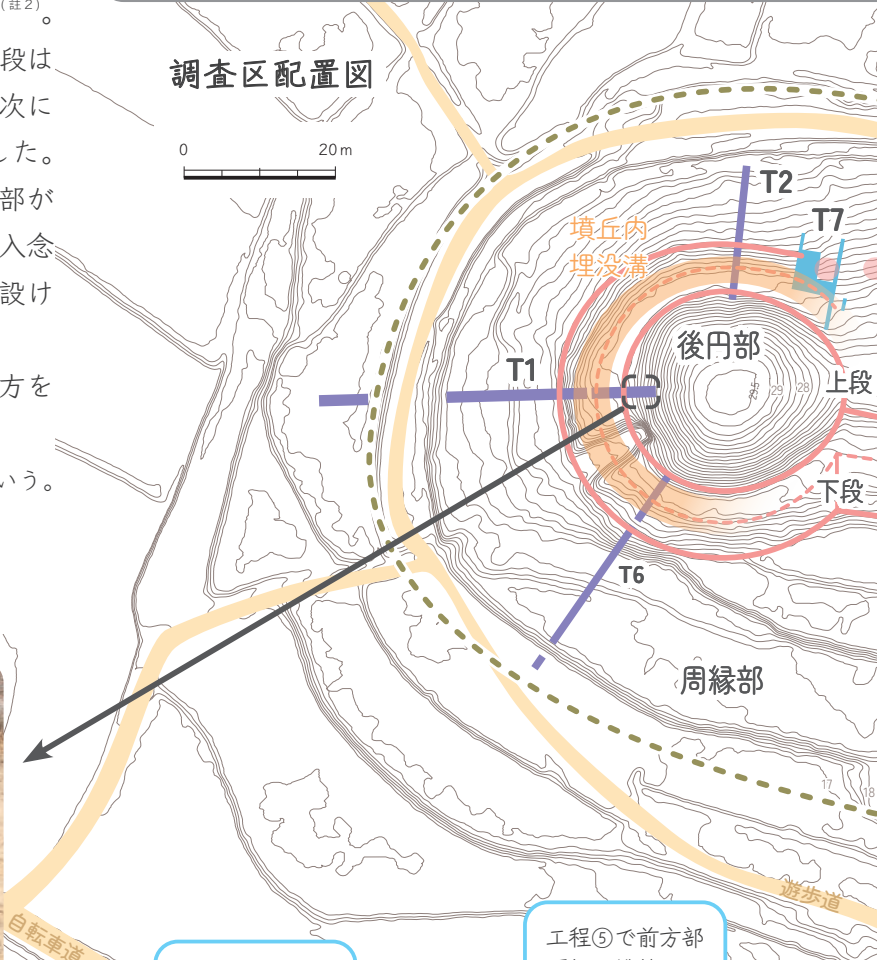
(註3)ここでは、「土手状盛土」という。

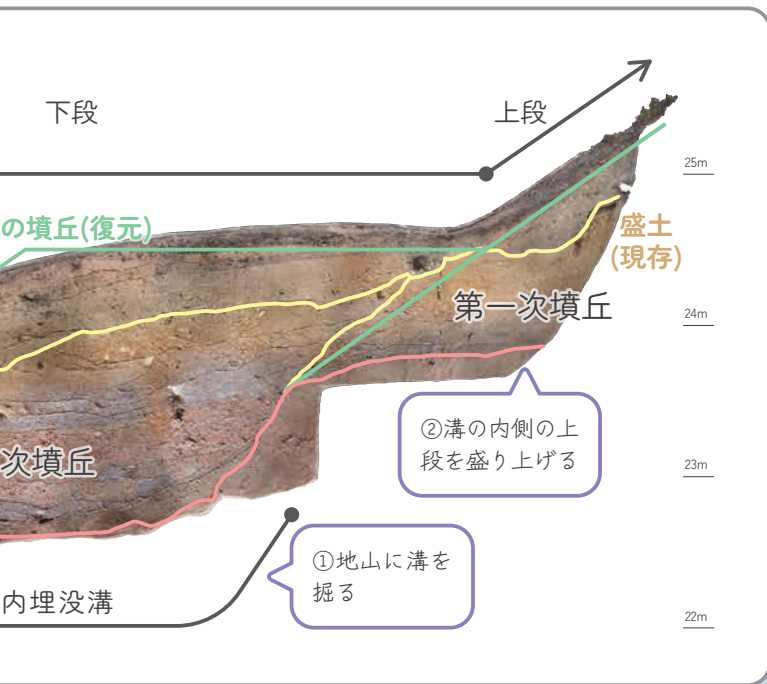


↓T2(後円部北側の土層断面写真)



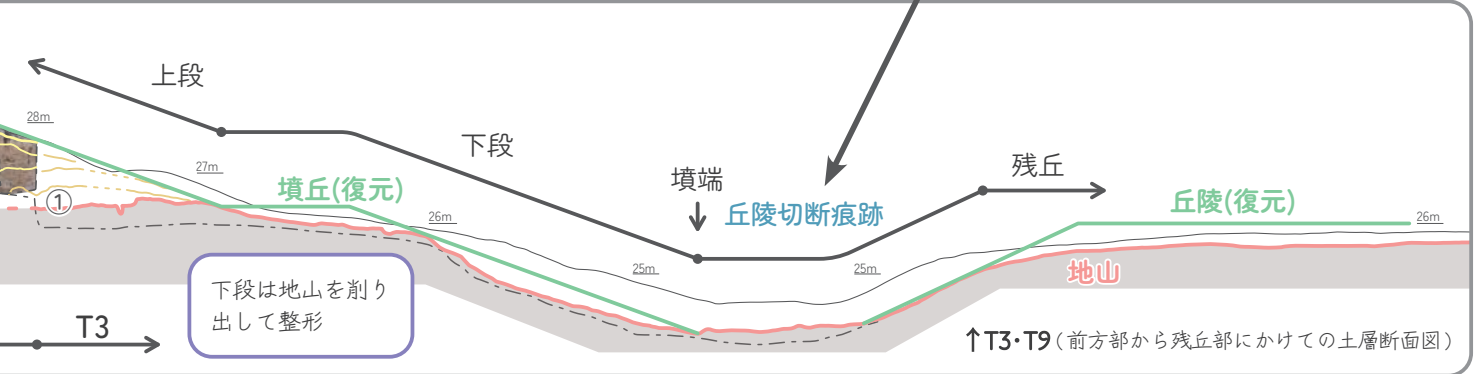
調査区配置図





T7の途中からT8を含め北西斜面では、段築と墳裾の整形が簡略化されている

墳丘内埋没溝は上段の縁を廻るように掘削



こうもり塚古墳墳丘の全貌

今回の墳丘発掘調査で、こうもり塚古墳の規模、構造が分かってきました。ここでは、その成果をまとめてみました。

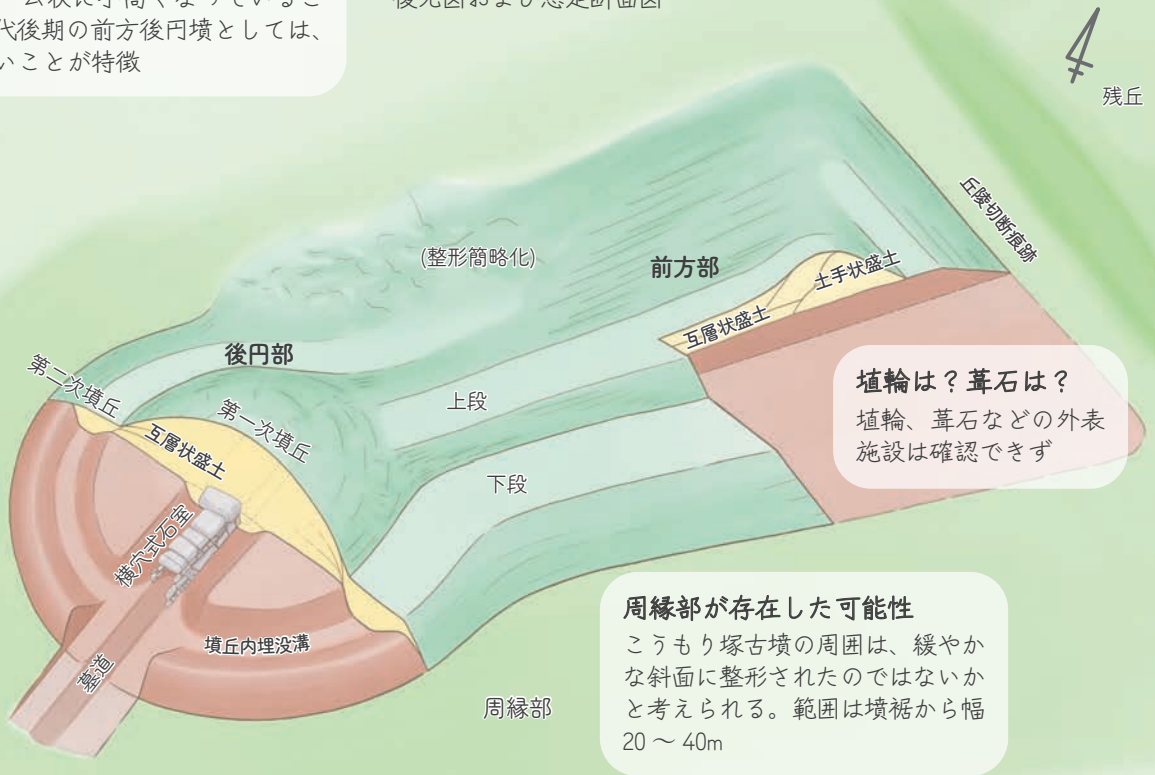
こうもり塚古墳の特徴は？

墳長約96m、二段築成の前方後円墳
後円部がドーム状に小高くなっていること、古墳時代後期の前方後円墳としては、前方部が長いことが特徴

こうもり塚古墳の墳丘計測値

前方後円墳 二段築成(北西側未整形)
 墳長 約96m
 【後円部】 直径約43m
 上段 高さ5m 下段 高さ3.4m
 【前方部】 長さ約53m
 上段 高さ3.1m 下段 高さ2.4～2.8m

復元図および想定断面図



後円部と前方部で構築方法に違い？

【後円部】 1. 地山を整形

2. 上段の縁に沿った墳丘内埋没溝(弧状の溝)を掘削
3. 石室を覆う第一次墳丘(上段)を構築
4. 溝を埋め、第二次墳丘(下段)を構築
5. 地山を削り込みながら、下段墳裾を整形

【前方部】 1. 元の尾根筋に直交するように溝を掘削して古墳本体を切り離す

2. 下段(地山)を整形
3. 土手状盛土で上段前端を確定
4. 土手の内側を互層状盛土で構築

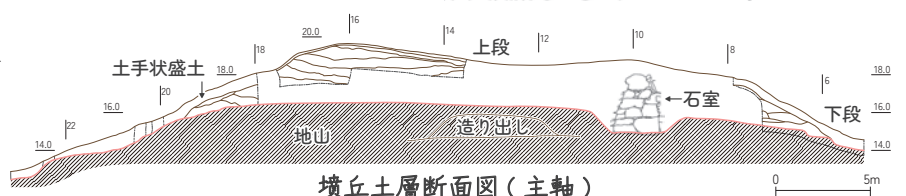
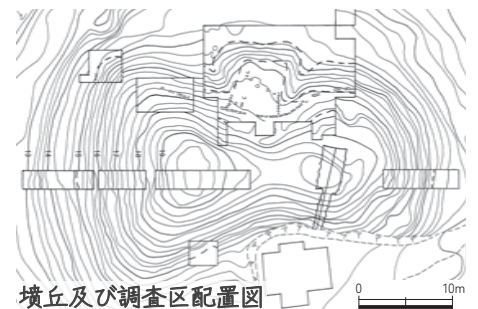
他古墳との墳丘構築方法の比較—二万大塚古墳(倉敷市真備町)

こうもり塚古墳と同様の両袖式横穴式石室をもつ二万大塚古墳は、異なる墳丘構築方法を採用していました。

こうもり塚古墳では、まず墳丘内埋没溝を掘削後、上段(第一次墳丘)を盛り上げ、次に下段(第二次墳丘)を造りますが、二万大塚古墳では、墳丘内埋没溝はなく、下段から順に盛土を積み上げています。

二万大塚古墳

- ・前方後円墳(墳長約38m)
- ・二段築成、造り出しあり
- ・両袖式の横穴式石室(現存長約9.1m)



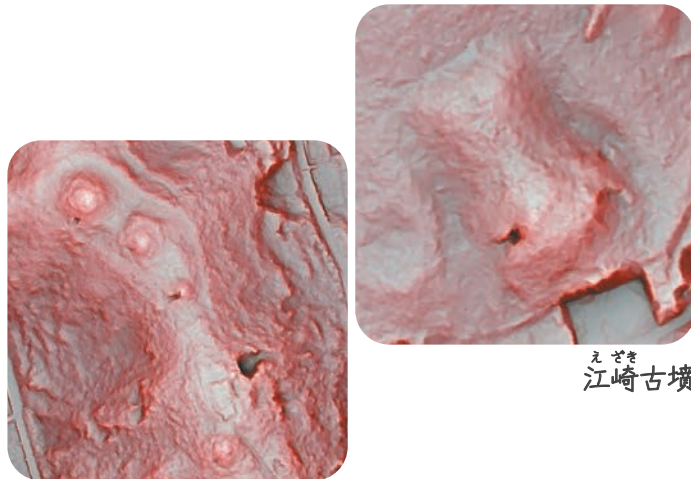
新納泉・三浦孝章編 2018『二万大塚古墳』
二万大塚古墳発掘調査団を基に一部改変

コラム ^{せきしよくりったい}赤色立体地図 (Red Relief Image Map)

近年、山城跡や古墳の形状把握などの考古学の分野において、赤色立体地図が活用されています。

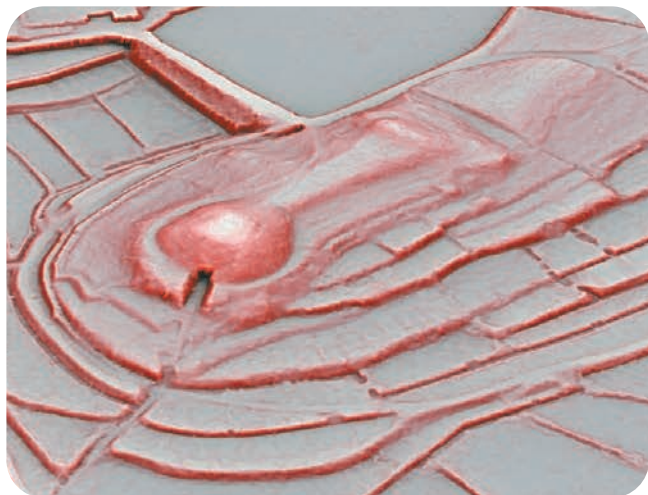
赤色立体地図は、立体感が最も強く表われる赤色で、細かな地形の凸凹を表現した地図です。航空レーザ計測で得られたデータを基に、傾斜の緩急や谷の浅深が、赤色の濃淡や明暗で表されています。また、データを加工することによって、どの方向からでも立体的に見ることができます。

古代吉備文化財センターでは、今回の事業にあわせ、令和2年度にこうもり塚古墳周辺の赤色立体地図を作成し、調査研究に活用しています。

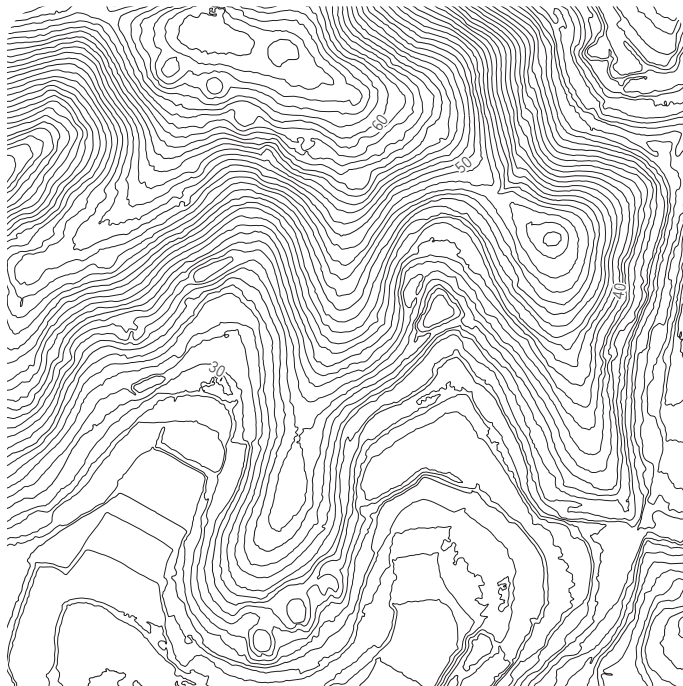


えざき
江崎古墳

ろどりやま
緑山古墳群



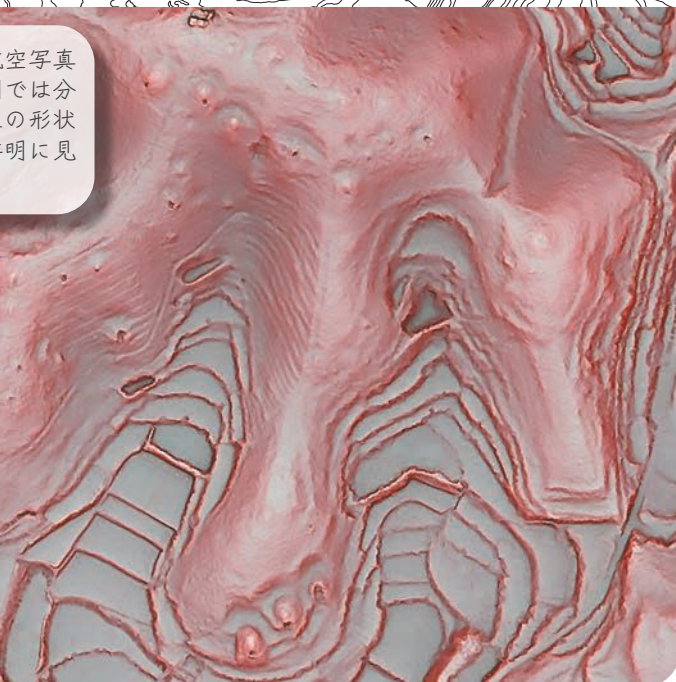
こうもり塚古墳(南上空から)



いなりやま
稲荷山古墳群 等高線図→
航空写真↓ 赤色立体地図↓



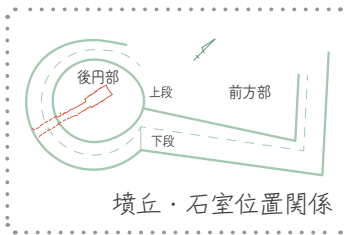
樹木で覆われた航空写真や通常の等高線図では分かりにくい、墳丘の形状や周溝の様子が鮮明に見とれる



こうもり塚古墳の横穴式石室

この地域では、横方向から出入りすることができる石組みの埋葬施設、横穴式石室が6世紀中ごろから普及し始めます。

こうもり塚古墳では、後円部下段の南側を入口として、横穴式石室が設けられています。

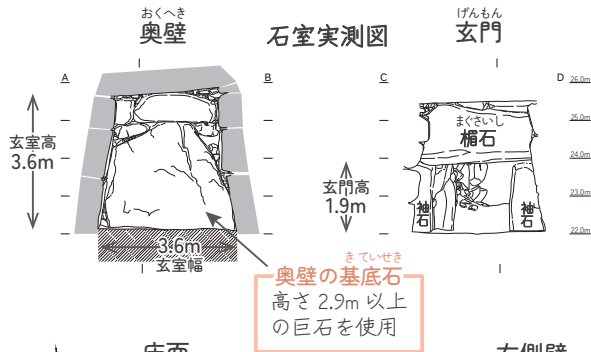


- ・玄室の平面形が長方形
 - ・天井が平天井
 - ・角礫や粘土で入口を塞ぐ
 - ・長い羨道をもつ
- 近畿の横穴式石室との類似点

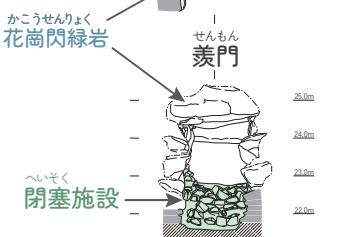
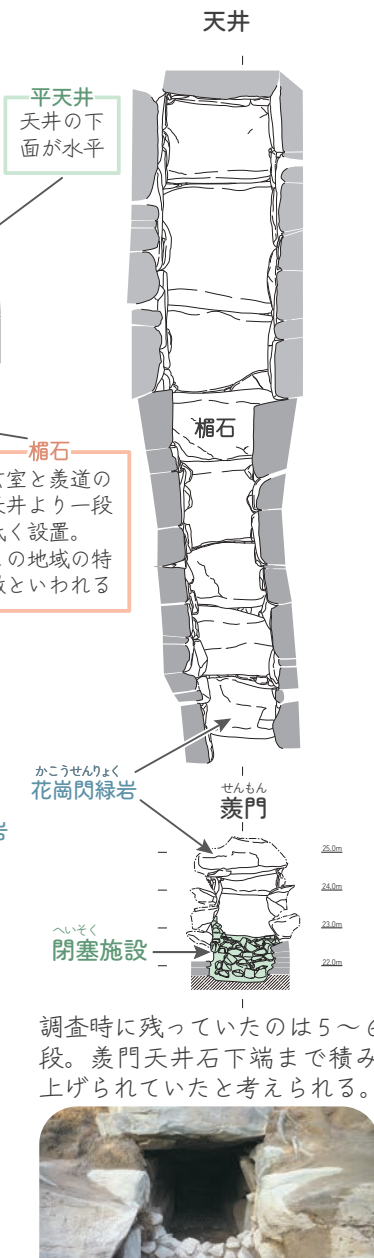
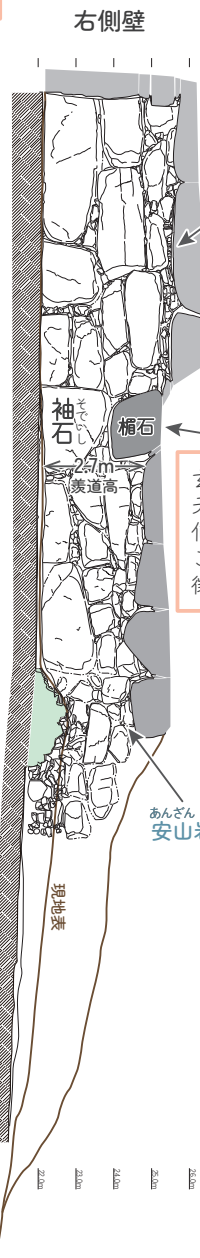
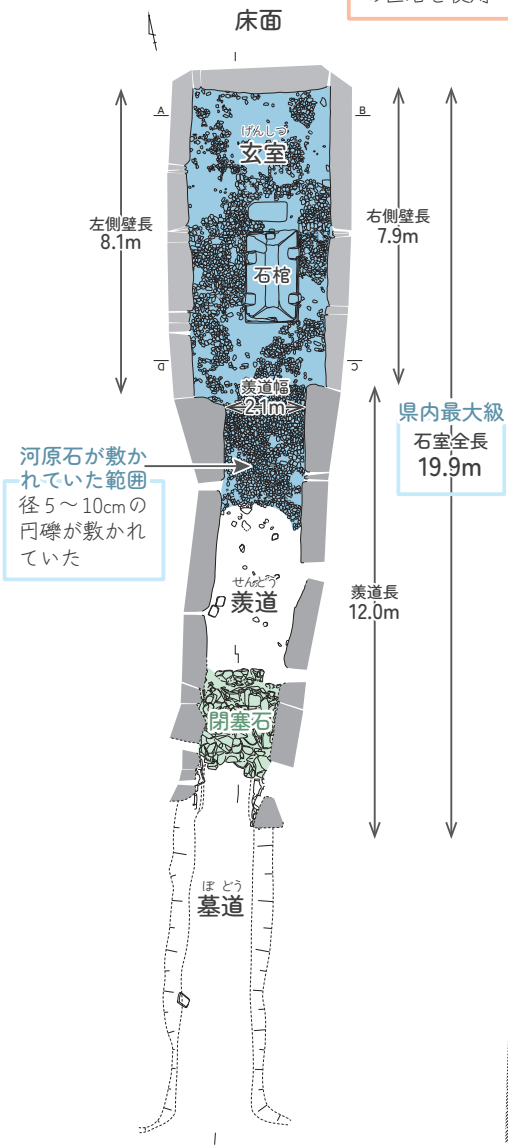
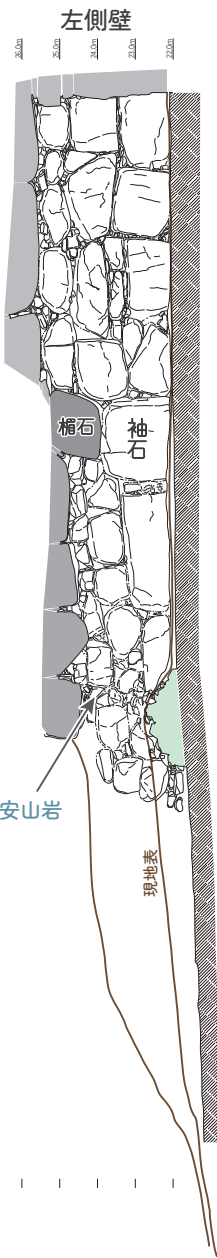
- ・奥壁基底石に巨石を使用
 - ・楣石を一段低く架構する
- 近畿との相違点



巨石を使用した奥壁



楣石と袖石



調査時に残っていたのは5~6段。羨門天井石下端まで積み上げられていたと考えられる。



発掘調査時の閉塞施設

石室の石材
玄室や羨道に使われている石材は、主に周辺で採れる花崗岩。ただし、羨道側壁の上段には安山岩も入る。また、羨門の天井石のみ色合いの異なる花崗閃緑岩を使用

閉塞施設
石を粘土で固定しながら積み上げて、石室の入口を塞いだ

コラム 三須丘陵における横穴式石室変遷図

横穴式石室は、岡山県では6世紀中ごろから普及し始め、その平面形から両袖式・片袖式・無袖式に分類できます。

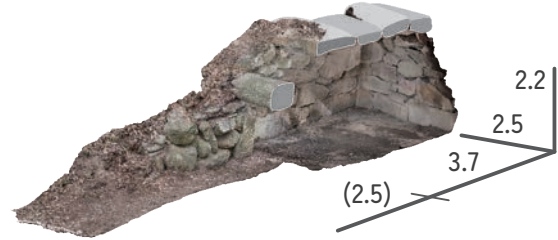
こうもり塚古墳が所在する三須丘陵は、岡山県内

でも有数の横穴式石室を含む古墳が分布している地域として有名です。この中で、横穴式石室の変遷において特徴的な4基を紹介します。

6世紀第2四半期

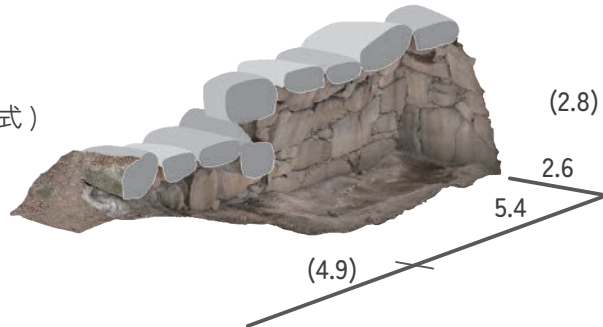
緑山6号墳

円墳 径15.6m
横穴式石室(両袖式)



緑山7号墳

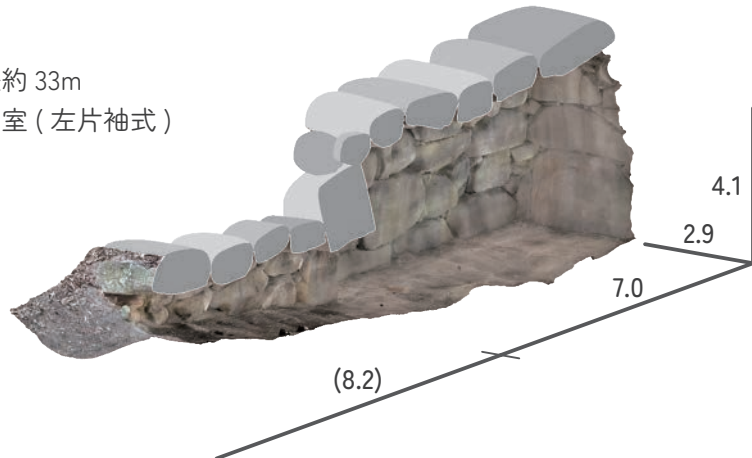
円墳 径約30m
横穴式石室(右片袖式)



奥壁基底石の大型化
石室石材の大型化
玄室の長大化

緑山8号墳

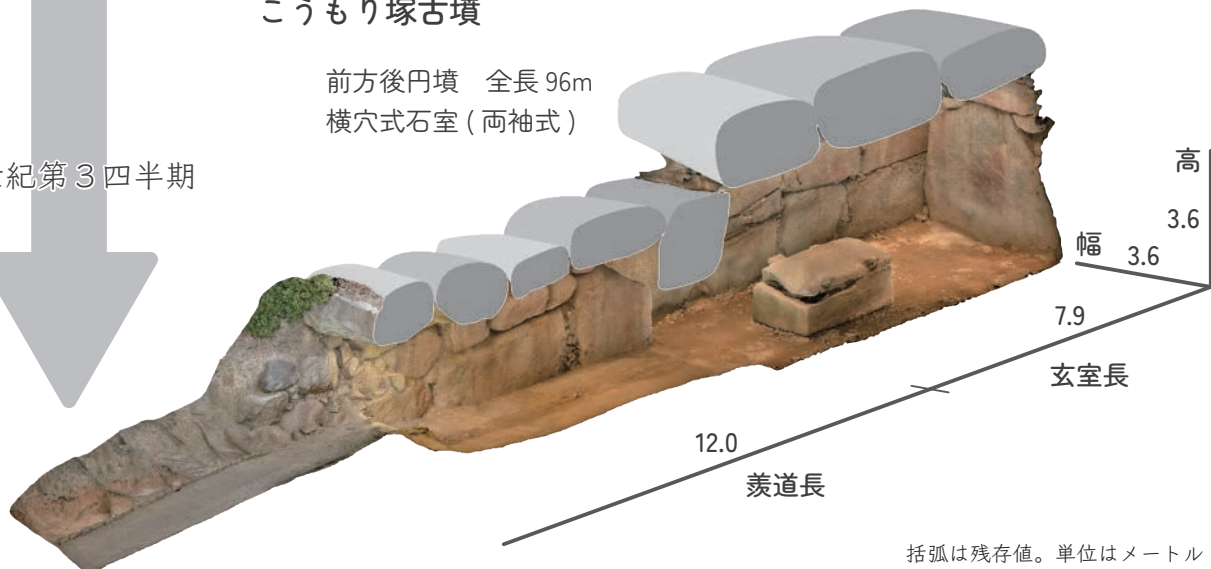
円墳 径約33m
横穴式石室(左片袖式)



6世紀第3四半期

こうもり塚古墳

前方後円墳 全長96m
横穴式石室(両袖式)



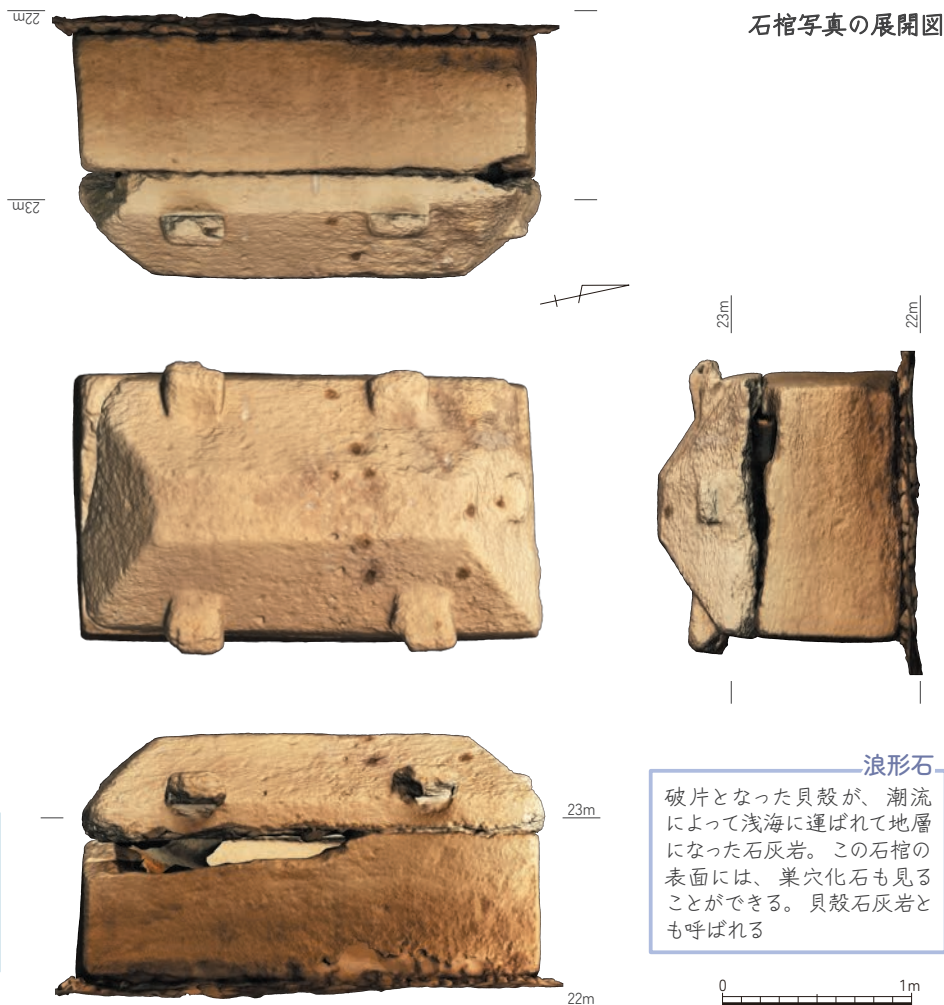
括弧は残存値。単位はメートル

こうもり塚古墳の棺

石棺

計測値

現存長 247cm
最大幅 155cm
最大高 130cm



石棺写真の展開図

なわかけとつき 縄掛突起

運搬の際に縄を掛けるための突起と考えられる。装飾的な意味合いもあり、時代によって形や大きさ、取り付け位置が変化する

浪形石

破片となった貝殻が、潮流によって浅海に運ばれて地層になった石灰岩。この石棺の表面には、葉化石も見ることができる。貝殻石灰岩とも呼ばれる

古墳時代には様々な形の石棺が用いられました。こうもり塚古墳の石棺は、その見た目から「冢形石棺」と呼ばれ、蓋と身の二つの大きな石を削り抜いて作っていることから、「刳抜式冢形石棺」と呼ばれています。この「刳抜式冢形石棺」は、6世紀前半から大和政権の大王墓に採用されるようになり、こうもり塚古墳が築造された6世紀後半では最も格式が高い棺とされていました。



浪形石の産出地と浪形石製石棺出土地

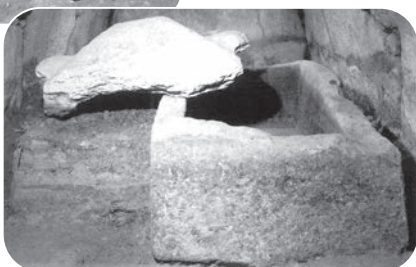


発掘調査時の石棺の状況

←蓋が開けられ、半分埋もれた状態だった石棺（奥壁から）

写真(上・右): 岡山大学考古学研究室提供

盗掘で蓋と身の合わせ目を中心に激しく打ち欠かれた跡が残る(玄門から)

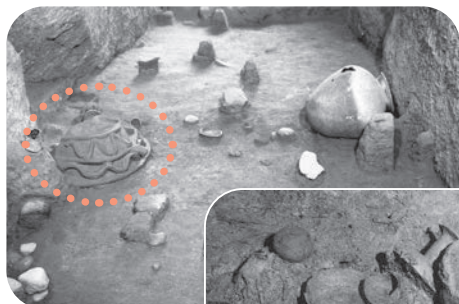


こうもり塚古墳の石棺に使用されている石材は、現在の井原市周辺で産出する「浪形石」(貝殻石灰岩)です。この石材の産地はこうもり塚古墳から25km以上も離れており、遠くから大きく重たい石を運ばせた被葬者の権力の大きさが窺えます。また、この「浪形石」で作られた石棺は全部で5例しか残っていない貴重な資料です。

冢形石棺は、被葬者と大和政権との関わりを探るための重要な資料です。畿内の大王墓と共通する形状でありながら、その石材には吉備のものが採用されている点に特色があります。

陶棺

陶棺とは、粘土で形を作った後、焼いて仕上げた棺のことで、6世紀中ごろから8世紀ごろまでの約150年間、棺の一種として使用されました。日本全国から約900点出土していますが、そのうちの約70%が岡山県内からの出土であり、古墳時代後期の岡山の地域性を特徴付ける遺物として評価されています。



発掘調査時の陶棺の出土状況

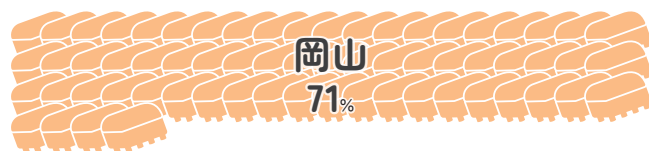
玄室から出土した脚部

羨道から出土した蓋の一部



岡山大学考古学研究室提供

復元値
全長約 245cm
最大幅約 72cm
最大高約 91cm



津山郷土博物館 2013 『土の棺に眠る～美作の陶棺～』を基に作成

全国の陶棺出土件数の割合



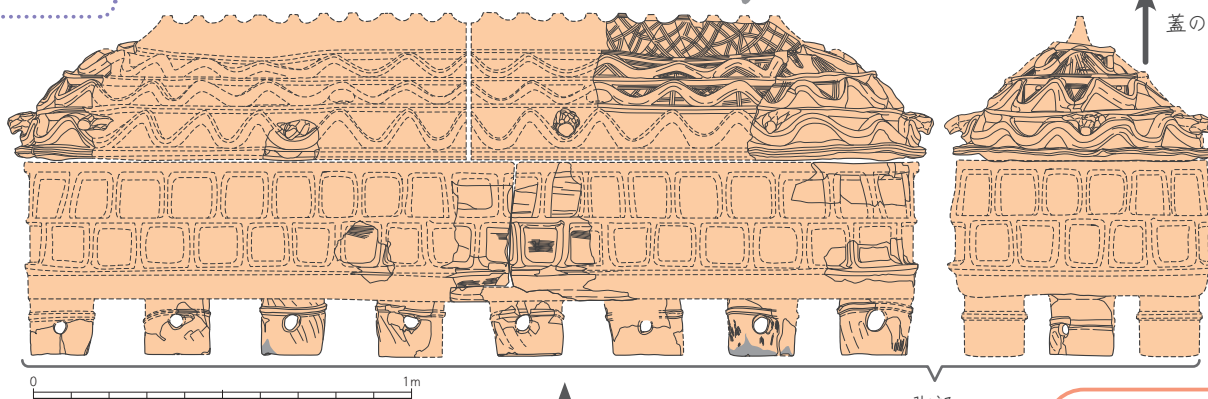
Q拡大

突帯や細かな線刻文様など、装飾性豊か



蓋のこの部分

こうもり塚古墳の陶棺復元図



脚部

Q拡大

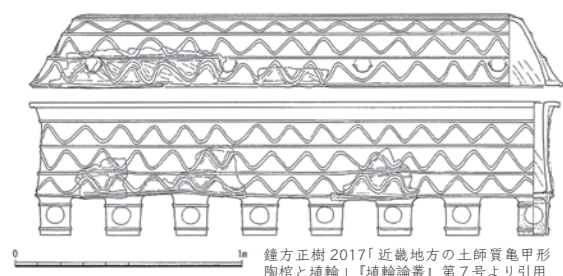


脚部

24本の脚を有する大型の陶棺であることが判明

蓋の突帯や円筒埴輪のような脚がよく似ている

土師の埴輪窯跡群(大阪府)の陶棺復元図



鎌方正樹 2017 「近畿地方の土師質亀甲形陶棺と埴輪」『埴輪論叢』第7号より引用

こうもり塚古墳の陶棺で目を引くのは、その意匠です。特に蓋の装飾は華やかで、3条の横突帯とその間に配された波状の突帯のほか、楯状の工具で細かく文様が描かれた天井部のトサカ状の飾り板など、これほど華やかに装飾された陶棺は他に例を見ません。

また、脚部に注目すると、それぞれに突帯と円形の透かし孔が施されており、古墳に並べられる円筒埴輪と類似していることがわかります。埴輪に似た

形状の脚を持つ陶棺は岡山ではほかに例がありませんが、近畿地方には類例があり、両者には繋がりがあったことがわかります。近畿地方の陶棺は、こうもり塚古墳より一足早い6世紀中ごろに製作が始まったと考えられており、こうもり塚古墳の陶棺は、近畿地方の勢力との交流によってもたらされた可能性が考えられます。

こうもり塚古墳の副葬品

発掘調査以前からすでに盗掘を受けていたとはいえ、昭和42年の玄室、昭和53年の羨道の発掘調査で様々な副葬品が出土しました。これらはこうもり塚古墳の築造時期や被葬者の人物像を考える上で、大変重要な資料です。

たんほうかんとう た ちつかがしら

単鳳環頭大刀柄頭 (①)

単鳳環頭大刀は、古墳時代後期に使用された装飾付き大刀の一種で、各地の有力首長が権威の象徴として身に付けていたものです。柄頭(柄の装飾部分)を残すのみですが、こうもり塚古墳の被葬者が大和政権と密接な繋がりを持ち、地域の軍事力を統括した大首長のような人物であったことが想定できます。

鳳凰と環部を一体で
鑄造した後、鍍金で
仕上げている



(実寸大)

計測値
最大長 66mm
最大幅 61mm
最大厚 10mm

てつぞく ゆみかなぐ 鉄鏃・弓金具

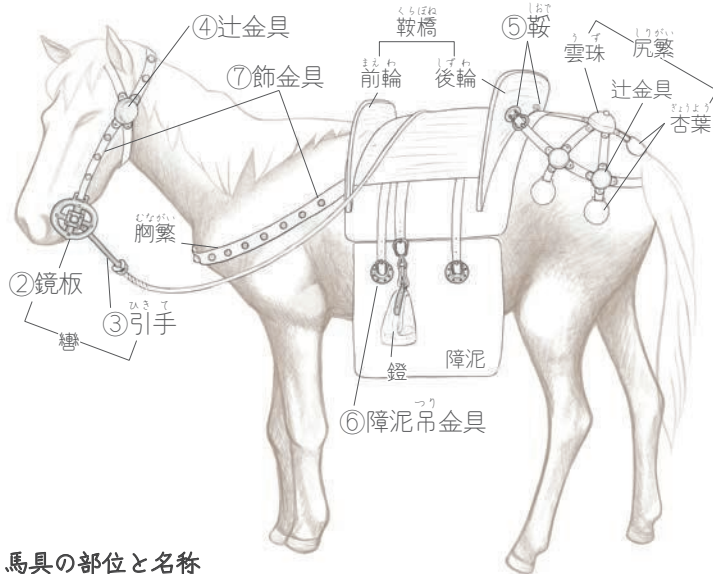
大刀以外の武器として、鉄鏃や弓金具も出土しました。鉄鏃については、長頸鏃82本以上、平根鏃12本、「鉛筆のキャップ形」の鏃20本を確認しました。こうもり塚古墳の規模を考えると、種類は少ないですが、盗掘の影響を考慮すると、100本以上の鉄鏃が副葬されていたことが想定できます。

長頸鏃…左から3本は片刃形、
4本目から右は柳葉形
平根鏃…左から3本は長三角形、
右6本は柳葉形



ばぐ 馬具 (②~⑦)

轡、鞍、障泥の金具の一部や、鏡板、辻金具、飾金具といった鍍金を施した馬飾りの一部が出土しています。形状などから、6世紀後半に製作されたものと考えられます。



馬具の部位と名称



「鉛筆のキャップ形」の鏃

弓金具
(両頭金具)



西暦	560	580	600	620	640
型式	MT85	TK43	TK209	TK217	
杯					
高杯					
甗・提瓶・壺					

豆知識 須恵器の型式
 須恵器は、当時大量に生産されていた大阪府陶邑窯跡群の窯資料を基におよその製作年代が推測できます。考古学では、その窯の名前の略称（MT、TK など）を用いて型式名としています。

例 TK43 とは高蔵 43 号窯跡で出土した須恵器を指標とするもので、「TK43」はおよそ6世紀後半に比定されています。

0 20cm

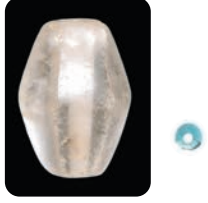
こうもり塚古墳出土の須恵器の変遷

こうもり塚古墳の石室から、100点ほどの須恵器・土師器が出土しています。これらの土器は、被葬者へのお供え物を入れたのではないかとする説があり、当時の風習を考える上で貴重な資料です。また、須恵器は製作年代を推定することが可能であるため、こうもり塚古墳の築造時期を考える上で重要な手掛かりとなります。

出土器種
 須恵器：杯、高杯、甗、提瓶、壺、器台、甕
 土師器：直口壺、甕、高杯、把手付椀

装身具

装身具として、耳環（耳飾り）が4点、水晶製切子玉・ガラス製小玉が各1点出土しています。そのうち、耳環は3種類出土していることから、少なくとも3名の埋葬があったと考えられます。



こうもり塚古墳の意義

令和2年度から開始した史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査の結果、こうもり塚古墳は、古墳時代後期後半（6世紀第3四半期ごろ）に築造された墳長約96mの大型前方後円墳であると考えられます。この時期、この墳丘は中四国・九州地方で最大級の規模を誇っていたほか、その墳形は欽明大王陵との説がある五条野^{きんめいだいおうりょう}（見瀬^{みせ}）丸山古墳と良く似ていることも指摘できます。

また、こうもり塚古墳は墳丘を築造するに当たり、後円部に墳丘内埋没溝を設けていたり、互層状の盛土で後円部を高大化したりと、これまでの古墳築造にはあまりみられなかった構築技法を導入していたことも明らかとなりました。前方後円墳の大きさは、それを造った豪族の権力の大きさを反映していると考えられ、また、大王墓との墳形の類似は、大和政権との政治的関係の深さを反映しているといえます。

こうもり塚古墳は、県内^{きよせきふん}三大巨石墳に含まれる巨大な横穴式石室（全長約19.9m）を有しており、これは6世紀後半において五条野丸山古墳（約28.4m）に次ぐ全国的にも屈指の規模です。また、横穴式石室の

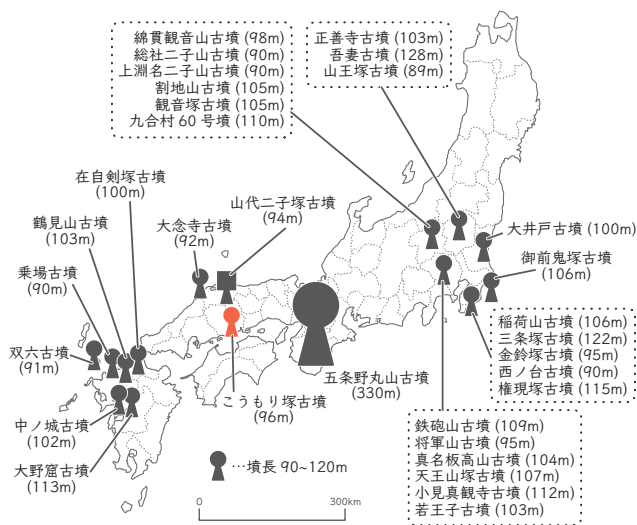


こうもり塚古墳の測量図は、南半部を反転して掲載している
 (一瀬和夫ほか 2013『権原丸山古墳測量調査』京都橋大学文化財調査報告 2012』京都橋大学を基に一部改変)
五条野丸山古墳(左)・こうもり塚古墳(右)の比較

中に家形石棺を配置するなど、畿内の大王墓^{そんしよく}と遜色のない内容をもっています。このような巨大な石室や石棺を造るには多大な労働力や高度な技術が必要です。横穴式石室の用石方法には吉備南部に特徴的な手法もみられることや、石棺石材も地元産の石材を利用していることから、古墳の築造に当たっては、当時の最新技術に加え在地の労働力や技術、資源も活用されたと考えられます。

さらに、こうもり塚古墳の横穴式石室からは、陶棺や環頭大刀・馬具など、埋葬された人物の性格を推測できる貴重な遺物が出土しました。そのうち、陶棺は線刻や波状の突帯を施す装飾性の豊かなもので、吉備^{かわち}最古段階の陶棺として評価できるだけでなく、河内地域との関係を窺うことのできる資料として重要なものです。また、環頭大刀や馬具は近畿地方からたらされたものと考えられています。

このように、こうもり塚古墳に葬られた人物は、この地域の有力者で、大和政権と強く結びついていた西日本屈指の豪族であったことが推定できます。古墳時代後期は、大和政権が地方に対して政治的・経済的・軍事的な支配を推し進めた時期です。こうもり塚古墳は、この時代の中央と地方との関係を色濃く反映した古墳であると評価できます。



(仁木聡 2019「継体・欽明朝における出雲の画期」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22集 島根県古代文化センターを基に一部改変)

欽明朝における100m級以上の前方後円墳

所在地	古墳名称	築造時期	石室全長 (m)
奈良県	五条野丸山古墳	6世紀	約28.4
福岡県	みやじだけ 宮地獄古墳	7世紀	約23
総社市	こうもり塚古墳	6世紀	約19.9
倉敷市	やた 箭田大塚古墳	6世紀	約19.1
奈良県	いしぶたい 石舞台古墳	6～7世紀	約19.1
岡山市	むさ 牟佐大塚古墳	7世紀	約18
奈良県	ふじのき 藤ノ木古墳	6世紀	約14

全国の巨大横穴式石室

「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業

岡山県では、こうもり塚古墳を保存し、歴史を学ぶことで、郷土への愛着を育み、吉備路の魅力を未来へ継承することを目標に、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業を進めています。こうもり塚古墳は、「吉備路風土記の丘」内にあり、県内有数の観光地である「吉備路」の中核にあります。このことから、周辺の

大規模古墳などを含む吉備路全体のさらなる魅力向上を見据え、『史跡こうもり塚古墳保存活用計画書』（令和2年度刊行）を基に、「古代吉備」の豊かな文化遺産を体感できる場として、関係機関と協力しながらこうもり塚古墳の調査、整備、活用を計画しています。

史跡こうもり塚古墳の整備

地域内外の見学者の皆さんが、安全かつ効果的に周遊できるように、大きく次の2項目の整備方法を検討・実施しています。

1. 史跡保存のための整備

盛土の流出などによる墳丘のき損防止や修復、横穴式石室や石棺の保存及び防災対策を検討し、計画的に整備を実施していきます。

2. 保存活用にかかわる整備

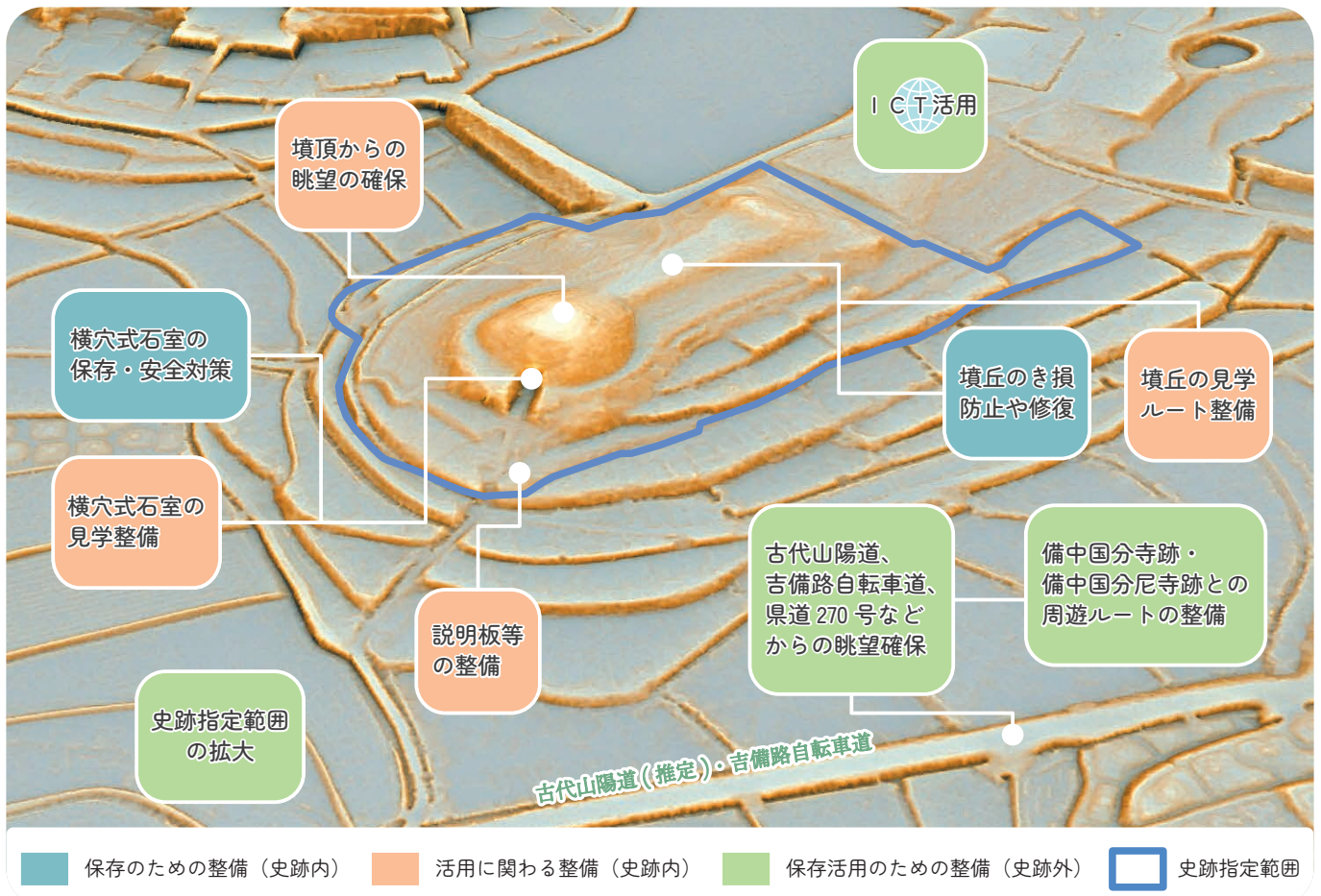
遺構保全はもとより周辺（古代山陽道、吉備路自転車道、県道など）からの古墳の眺望が、周辺の景観と調和のとれたものになるようにします。また、見学者の安全や快適性を図ったユニバーサルデザイン（バリアフリー）に対応した遊歩道などの整備

や、調査の成果を基にこうもり塚古墳本来の形状表現を検討していきます。そして、安全な横穴式石室見学のために、石室内の壁面・床面保護などの保存対策及び公開方法を考えていきます。

また、見学者に興味と理解をより深めてもらえるように、近年の調査成果も反映した分かりやすい説明板やガイダンス施設の整備・更新を実施するとともに、ICT（情報通信技術）も活用していきます。

さらに、こうもり塚古墳を中心に、周辺の史跡や古墳群をつないで一体的に体験学習できる見学・周遊ルートを検討し、その移動環境の整備・改善と充実を図っていきます。

保存活用のための整備方法のイメージ図



史跡こうもり塚古墳の活用

こうもり塚古墳が身近な史跡として親しまれ、その魅力を多くの人が体験できるように活用していきます。まずは、他の歴史遺産をもつ地域の自治体や関連団体と連携して、文化財に関わる情報を提供・発信する広域的なネットワークづくりに取り組みます。また、地域の歴史を一体的に体感できる周遊ルートの設定や文化財を活かしたイベントなどを計画し、学校教育・生涯学習などに活用していきます。

岡山県古代吉備文化財センターでは、これまでも、県立岡山工業高等学校と連携し、横穴式石室のVR（360°動画）の作成・公開を行いました。また、吉備路やこうもり塚古墳のパンフレットを刊行したほか、今後も企画展示や講演会、ウォーキングなどの関連イベントも定期的実施していきます。



VR (360°動画)



パンフレット

古代山城
鬼城山エリア

造山古墳エリア

総社市

岡山市

岡山県

造山古墳から作山古墳までの約3kmの間に所在する史跡等を体感し、学習できるよう、県・総社市・岡山市が地域住民等とともに連携して保存整備を行い、吉備路の歴史遺産の魅力を発信します

作山古墳
備中国分寺エリア

作山古墳
備中国分寺跡

こうもり塚古墳
備中国分尼寺エリア

編集・発行：岡山県古代吉備文化財センター
 所在地：岡山市北区西花尻 1325-3
 tel.086-293-3211 fax.086-293-0142
 URL: <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>



サイトは
こちらから



令和5年2月刊行

